

国語

(二年) 時間 四十五分

《注意》

- 一、先生の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- 二、答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 三、字は、ていねいに、はっきりと書きなさい。
- 四、百点満点です。配点は各問題のはじめに示してあります。

【一】 次の問いに答えなさい。(二十点)

問一 次の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。(各二点)

- ① 朗らかな性格の友人。
- ② 委員長が発言を促す。
- ③ 緩やかな坂道を上る。
- ④ 駅前の雑踏を歩く。
- ⑤ 春の雨が大地を潤す。

問二 次の傍線部のかたかなを、漢字に直して書きなさい。(各二点)

- ① ケワしい山道を登る。
- ② ヒタイに汗をかいて働く。
- ③ コウソウビルを見上げる。
- ④ 荷物を駄でアズける。
- ⑤ キチヨウな体験をする。

【二】 次の文について、あとの問いに答えなさい。(二十点)

白い犬が公園をゆっくり走る。

問一 この文を文節に分けると、いくつに分けられますか。漢数字で答えなさい。(四点)

問二 この文を単語に分けると、いくつに分けられますか。漢数字で答えなさい。(四点)

問三 次の①～③の単語の品詞名を、あとのア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(各二点)

- ① 白い
- ② ゆっくり
- ③ 走る

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞

エ 形容動詞 オ 副詞

問四 次の①～③の文節は、それぞれ文の成分としては何にあたりますか。あとのア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(各二点)

- ① 犬が
- ② 公園を
- ③ 走る

ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語 エ 接続語

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(二十四点)

三月の風はまだ冷たいのに、校庭の桜のつぼみは、①小さなこぶしを振り上げるように膨らみ始めていた。放課後の音楽室で、私は一人、フルートを構えた。三学期の終わりに行われる送別会で、卒業する先輩たちの前で演奏することになったのだ。

息を吹きこむ。けれど、出てきた音は、②迷子の子猫の鳴き声のように頼りなかった。風が、思い出したように窓を小さくたたいた。

「その音、悪くないよ。」

振り向くと、戸口に立っていたのは、三年生の田中先輩だった。先輩は、私にフルートを教えてくれた人だ。

「でも、震えています。」

「震えていいんだ。③それは、④心が動いている証拠だから。」

先輩はそう言って、窓の外に目をやった。夕日が、音楽室の床をオレンジ色に染めていた。

私はもう一度フルートを構えた。今度の音は、さっきよりも少しだけ、まっすぐに伸びた気がした。

(オリジナル作品「送別会の音」より)

問一 傍線部①に用いられている表現技法を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(四点)

ア 擬人法 イ 直喩 ウ 隠喩 エ 倒置法

問二 傍線部②は、「私」のどのような様子を表していますか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(四点)

ア 演奏が上達して自信にあふれている様子。

イ 先輩に早く会いたくてあせっている様子。

ウ 自信がなく、弱々しい音しか出せない様子。

エ 子猫のことが気になって集中できない様子。

問三 傍線部③「それ」が指している内容を、本文中の言葉を使って十字以内で書きなさい。(六点)

問四 傍線部④「心が動いている証拠」とありますが、先輩はどのようなことを伝えようとしたのですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(六点)

ア 緊張や不安も、真剣な気持ちのあらわれだということ。

イ 演奏の前には必ず楽器の調整が必要だということ。

ウ 音が震えるのは練習が足りない証拠だということ。

エ 卒業しても音楽を続けてほしいということ。

問五 本文中から、擬人法が用いられている一文を探し、初めの五字を抜き出して書きなさい。(四点)

【四】 次の古文（「竹取物語」の冒頭）を読んで、あとの問いに答えなさい。（二十点）

今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに①使ひけり。名をば、さぬきの造みやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。③あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと④うつくしうて②あたり。

問一 傍線部①「使ひけり」と傍線部②「あたり」を、それぞれ現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（各四点）

問二 傍線部③「あやしがりて」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。（四点）

ア こわがって イ 不思議に思っ
ウ あきれて エ うれしく思っ

問三 傍線部④「うつくしうて」の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。（四点）

ア 美しい景色の中で イ 立派な姿で
ウ かわいらしい様子で エ 悲しそうな顔で

問四 「三寸ばかりなる人」は、どこにいましたか。本文中の言葉を使って書きなさい。（四点）

【五】 漢文と故事成語について、あとの問いに答えなさい。(十六点)

昔、楚の国に、盾と矛とを売る者がいた。その者は、「私の盾はとても堅く、これをつき通せるものはない。」とほめ、また、「私の矛はとても鋭く、どんなものでもつき通せる。」とほめた。ある人が、「あなたの矛で、あなたの盾をついたら、どうなるのか。」と尋ねたところ、その者は答えることができなかった。

(「韓非子」による話をもとにした文章)

問一 漢文を読むとき、「読_レ書」のように、下の一字からすぐ上の一字に返って読むことを示す「_レ」という記号を何といいますか。(四点)

問二 この話からできた故事成語「矛盾」の現在の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(四点)

ア 二つのもののつじつまが合わないこと。

イ 余計なつけ足しをすること。

ウ 小さな努力を積み重ねること。

エ 昔のやり方にこだわり続けること。

問三 商人が「答えることができなかった」のはなぜですか。「盾」「矛」という言葉を使って、簡単に説明しなさい。(四点)

問四 次の故事成語の意味を、あとのア～ウからそれぞれ選び、記号で答えなさい。(各二点)

① 蛇足 ② 推敲

ア 文章の言葉を何度も練り直すこと。

イ あっても役に立たない、余計なもの。

ウ 目先の違いにとらわれること。

(問題は以上です。見直しをしましょう。)